

おおとり会だより

おおとり会室の移転

おおとり会々長 牛木 琴

本年初頭、関西は未曾有の大震災に見舞われました。同窓生及び、ご関係各位の内にも被害を蒙られた方もお在りの事と存じます。心からのお見舞を申し上げますと共に、一刻も早い復興を念じ申し上げます。

その関西地区の静岡女子大学卒業の有志の方々が、関西在住及び関西でご活躍の恩師を中心として不定期的に乍ら集まり、「草薙の丘の集い」と名付けて、会報を年一回発行している御様子です。この会の代表の方が昨年の同窓会総会に、檄をもって出席なさいました。母校女子大の建物で唯一県立大学内に存在している図書館（現在は同窓会室とクラブ室になっている）が看護学棟が建つことで取り壊されるのに伴い、学内に女子大学を偲ぶモニュメントが立つように働きかける。：関西支部の設立を認める：等三点の主題を掲げての登場でした。この関西在住の方々の願いは全卒業生の心の底に流れる思いでもありますし、要望を読み上げる代表の方の思いは、当日の出席者に熱く伝わりました。遠くにいる故に更なるこの思い。この行動力は、真に有難く、一同、『喝』を入れられた様に受け止めました。理事会としても皆様の叡智と力を集成して、おおとり会の今後にとつて最善の対処をして参りたいと思っております。モニュメント建立の事など関係方面に打診、何らかの形で足

跡を残すことを実現してゆきたいと考えております。その折にはどうぞ更なる御協力をお願い致します。

尚、同窓会室の取り壊しに先立って、移転する部屋の改造が始まりました。県立大学正面奥の円形広場の講堂に続く学生食堂の外側（清水寄り）に地下一階、地上三階が増築され、夏休みまでに一階全部が拡大、食堂となります。中央階段を上って二階も現在は食堂の一部ですが、此処が学生サロン（正式名称は未定）にvariその南東角の32㎡の部屋が新しい同窓会室になります。七月中旬から改装工事が始まって、十一月末頃までに完成移転の予定になってます。こちらが完成致しますと、平成八年初より旧図書館は愈々取り壊されて看護学棟の建設が来年度より始まります。県立大学も卒業式を五回数え、その内に同窓会組織がどうしても必要となって来ることでございましょう。薬学部も含めて、女子短期大学が女子大となり、県立大学に統合されて行つたその歩みを、モニュメント建立もさる事乍ら、沿革の内にしつかりと残し組織に組み込んでゆくよう働きかけたいと思っております。



関西在住の有志の方々

関西支部より……

昨年のおおとり会総会では私達「草薙の丘の集い」の要望書をお取り上げた。草薙の丘の集いは関西在住の静大卒業生の有志が数年前より不定期ながらも集まって母校を懐かしみ（？）情報交換する場として出来上がったものですが、何らかの拠り所があったほうが良いのではと会誌「あるばとろす」を年一回発行しております。

元々「あるばとろす」は英文科の同窓会誌でしたが休刊中という事で名前を拝借し、卒業後の様々な経験・思いを井戸端会議的に出し合うという主旨で森主一元学長始め先生方にも原稿をお願いして3、5号と続いてまいりました。井戸端会議的とは言っても底に流れているものは何故女子大がこうも簡単に消滅してしまったのだろうか、私達はこのまま何もせずにいいたいのだろうかと言う疑問もせす。

昨年の例会の折、関西にいる卒業生が単にこうして話し合うだけでなく静岡のおおとり会にこの思いをおぶつてみてはどうだろうかという事になりました。その席でまともなことは①女子大の唯一の思い出となった旧図書館が残るよう働きかける、②短大/女子大を偲ぶモニュメントが立つよう働きかける、③この会をおおとり会関西支部として認めてもらう、という三点を盛り込む要望書を出すということでした。単に旧交を暖めるだけでなく母校の名を存続させるために明確な意思を持つ運動体に変身する記念すべき例会でもありました。あまり急で静岡ではどう受け止めてくださるの不安です。しかし、牛木会長様始めのおおとり会の幹事の方々はこの突然の申し出に暖かく応えて下さり大変感謝しております。一年過ぎました今、旧図書館の存続は難しいと聞いておりますがモニュメントにつきましてはそのままに向けて少しもお手伝いできればと望んでおります。松瀬育子（大学英文二回）



甘えん坊の高校生

松本久子 (大学被服二回)

三年間担任をした卒業生からの葉書に「今だから言えることですが、他の生徒ばかり世話して、余り相手にしてもらえず、ちょっぴり淋しかったんです。」と書かれていました。このクラスは元気が有り余って、ちょっとした問題をよく起こす女子のみの保育科のクラスでした。世話とは注意することなのです。「スカートが短いよ。ピアスをつけてはだめ。実習中は髪を結びなさい。」などです。確かに心配な子とはよく話しました。それを羨ましく思っている生徒がいるとは思いませんでした。

今年度から家庭科が男女共修となり、一年生の男子にも教えることとなりました。生徒指導以外ほとんど男子に接したことはない私は、少し緊張して授業に臨みました。でも拍子抜けしてしまいました。女子よりも無邪気で、おしゃべりで、甘えん坊なのです。マラソン大会がありました。終わってから男子が「○○(男性の担任)走っているとき、誰にも声かけてくれなかったな。」「私が声掛けてあげたでしょ。」って言ったら、にやにや笑っていました。本当のと

ころ、男子に声を掛けてもむっとした顔をしていたので、掛けないほうが良かったかと思っていたのでした。別の男子生徒が家庭科の課題を提出にきて「先生、僕の実力テストの英語良かったの知ってる?」私は彼の担任でも、副担でもないのです。でも彼は知っていてほしいのです。

男子は中学生になれば家では何も話さず、何を考えているかわからないものだと聞いていました。いたいこれはどうしたことなんでしょう。でも彼らはやはり家では余り話さないのかもしれない。照れ臭くて親には話せないのでしょう。しかし、誰かに認められたい、良くて悪くても存在を認められたいのです。そういえば娘も高校生の時、帰ってくるなり、「聞いて、聞いて」とトイレまで追いかけて来たことを思い出します。十分話を聞いてあげたためか、今年の四月から通えるのもかわからず、一人暮らしを始めます。二十一年ぶりに私の一人暮らしも始まります。

大きくなるのはあつという間です。どうぞ、子どもの話に耳を傾けてください。うるさそうな顔をされても時には声を掛けてあげてください。



「家庭塾」と幾春秋

山川愛子 (大学英文三回)

「……黙って出掛けてしまいうくらいですから、よほど通いたいに違いないと思います。……何とか切り詰めてやってみますが、無理な様でしたら仕方ないのでやめるということに……」……一母からの便り

自称よろず相談家庭塾を始めて二十年。団地暮らしの前半十四年は、仕事を共に担ってくれたパートナーと女同士の結束で、お互いに教師と乳母の役目を分かちあってきた。二人目の子供たちも、同じ頃に生まれ両腕に乳児を抱え、乳房が対になって女性の宿命と、強さを身をもって知ったものである。ゆえに、「産休」と称して交互に一ヶ月位を休んだだけで、この二十年間ほぼノンストップで、仕事をやり続けてきた。出産、子育ての時代に、仕事を中断せずこれたのは、女性の仕事に価値を持っている伴侶と、女同士の良きパートナーがいたからだとしみじみ感じている。母乳の飲み方も、彼女の娘はグビグビと、当方の娘はチヨマチヨマとした感触をさせてくれたものだった。

公民、物理、化学、生物、美術、体育、音楽、家庭科(?!):……よろず相談を豪語してしまった身の程知らずの後悔もかき消されてしまいうような猛勉強を、中間・期末テストの時期ともなると強いられる。もう止めねばもう止めねばと思っていたはずだがふと気付くと、自宅の居間を教室に変貌させていた。

そういう状態になっても、人寄りすることに協力的でいてくれる家族と、宵になってから賑々しくなる我家にして苦情を持ち込まないでいてくださる隣家の人々に対して「感謝」の一語である。

ところで、自営業の場合、年収38万円で納税の義務を負うし、扶養家族からはずれる。だから、生活との闘いも結構厳しいものがある。が、子育て体験者が、思春期の子らとゼミ形式で学び合うのもよいのではと考え、今日も仕事を続けている。

いつの間にか、長男は二十歳、長女は十六歳になっていた。

英語、数学、古文、地理、歴史、



幼児教育に携わって

長屋 梅子 (短大国文七回)

「おはよう。」
「園長先生おはようございます。」
と駆け込んでくる園児たちを、毎朝正門の所で迎えるのが、私の朝の日課となつて一年が経ちました。

勢いよく駆け込んでくる子供には、向こうに楽しい遊びや仲よしの友達が待っていることが明らかで、いかにもうれしそうです。背中のカバンもカタカタと軽快な音をたてて弾んでいます。しかし、中には母親の手を離そうとせず、門の外で立ちすくんでしまう子もいます。そんな時、受け持ちだったらどう対応するだろうかと考えながら、幼児教育一年生の私は、斉一杯の声をかけてやろうと努力しているところです。

幼稚園教育も、激変する時代の波に乗って、今、改革から創造へと余念がありません。真っ白な心で入園してくる子供たちに何を願ひ、あどけない一人一人の顔から読み取れるものは何か、そしてどんな支援が適切なのか、職員研修の中で熱い議論を戦わせることしばしばです。なぜならば、この幼児期が、その子の将来に渡ってい



かに生きるかを大きく作用する、人間形成の土壌を醸成する最も重要な時期であるとともに、集団学習の出発点でもあるからです。保育者は、この重責をしっかりと受け留めて、一日一日の保育を真剣に実践していくことが肝要かと思っています。

生涯を通して、小学校教育も、中学校教育も、高等学校教育もそれぞれ果たす役割があり大事ですが、もともととと大事なのが幼児教育であることを、幼稚園に就任して実感しました。豊かな土壌には豊かに実るように、小さい時から豊かに自然や動植物に接し、友達と遊びを通して多くの体験を積むことこそが、心豊かな人間の育成を約束出来ることかと確信しています。

今後も園・家庭・地域一体化の中で望ましい園経営が推進されるよう頑張っていきたいと思っています。



学生気質

鈴木セツ (短大食物九回)

秦先生の御紹介で、新設された東海大学短期大学部食物栄養学科に勤務して30年になろうとしています。

この間、学生気質(かたぎ)もずいぶんと様変わりしてきたように感じている。当時は、まだ学生との年齢差も少なく、物の考え方の価値感も大きな違いはなかったが、最近では、自分の子供より若い学生を相手に頑張っている自分である。

昨年の本誌に、岡田寿子さんが書かれたように、今まで勉強に追われてきた学生達は、入学すると同時に自由を満喫し、楽しく過ごすことを優先し、アルバイトに精をだしているのが現状である。しかし、短大の食物学科では、本来そのような自由な時間は無いはずである。学生に、専門外の知識を図書館などで勉強することを望むのは、教員として当然と思うのだろうか。

近ごろの若者は、「あれをやりなさい」、「こうやりなさい」と指示すればやるが、自分から考えて行動する事が出来ないといわれている。世間では、彼らのことを「指示待ち族」などと呼んでいるのだ

が、このような傾向が、年々強くなっていくように感じられ、心配している次第である。こうなった責任の一端は、子供の躾をする立場にある「親」である私達にあるのではないだろうかと考えさせられてしまう。

一方、学生達が、学外実習、就職試験など、対外的なことをいろいろと体験する事によって、大きく成長していく変化を見ていることは楽しみなことでもある。短大で過ごす2年間は、彼女達にとっても大人に成長していく大切な時期なのである。そのような人生の大切な時期に彼女達に接している私は、「とても幸せな職業に就いているのだ」と感じているこの頃である。

訃報

静岡女子短大教授、静岡女子大文学部名誉教授 横山英先生
平成六年七月二十四日 心不全で八十九歳にて逝去なされま
した。

平成七年三月末

ご退官の諸先生

○高嶋健一教授 一般教養

昭和三十三年から女子短大、女子大、県立大を通じて教育心理学を指導され、歌人としても有名で「草の快楽」など数多くの歌集を出版されました。

○中田修教授 英文科

昭和四十四年より平成七年までご指導されました。

○江崎幸子教授 食物科

昭和二十九年より平成七年まで食品学実験や食品学総論などをご指導されました。

○上柳富美子助教 食物科

昭和四十二年より平成七年まで調理学をご指導されました。

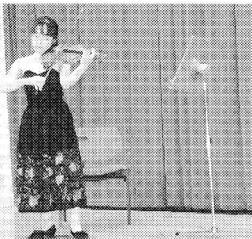


平成7年2月22日
最終講義をされる高嶋先生

おおとり会 そして思い出の美尾先生

(短大食物九回) 五十嵐君江

『おおとり会』のお知らせを私はことのほか心待ちしている。せせこましい日常のほこりっぽさを離れて県大のせいせいとした緑の中の建物がチラチラ目に入ってくると、自然の中での恵まれた勉学生活に憧れさえ覚える。懐かしくも心許せる友たちと会い心なごませ、恩師のお姿を拜見して



あ、お元氣そうだと嬉しく思い、再び昔の講義をこの中で聴きたい！などと思ってしまう。何年か前泰先生がおっしゃった。同窓会へはできるだけ出席するとい、自分に似合

って気に入った服を着て出る、そして周りを見てわたしが一番きれい、若い、と思えばストレスも解消、また明日から張り切ってやろうという気が起こる、これぞ同窓会の効用なりと。大笑いしたものだ。私など背丈も幅も規格外で何を着ても代わり映えがないと自覚しているから間際ではしかし「女は衣装髪形」とか「馬子にも衣装」とか言うのではない、今回はひとつ、と思っても結

局着易い動き易い条件で選ぶから後から写真を見て、アレ、この前と同じだ、なんて、笑ってしまう。昨年の総会は関西支部？の方の熱気溢れる檄文朗読と、異色の企画『美尾洋香トークコンサート』が楽しめた。美尾先生のお嬢さんのヴァイオリンは久しぶりだったので、感慨深く聴いた。

先生が「ウチにも娘が二人いるから二組くらいはお世話しなくては。」と、よその縁談に心を砕かれたことを思い出す。先生と何組かお引き合せをして、今度はうまく行きそうだよなどと、まとまることを期待したが、ヒツト(再デート)さえ難しく、ホームランはたったの一組だった。お似合い

のカップルだ、お互いに満足するに違いないと思われても、当人達にするとどこかがちぐはぐでかみ合わないのだ。改めて人のお世話の難しさを知った。「まあそれがお見合だからさ、ムリしなさんな、ハッハッハ。」と笑った先生。お嬢さん方に一日も早く理想のお相手が見つかることを祈ってやまない。

おおとり会総会

平成六年六月五日、恒例の、おおとり会総会が会員二二八名、来賓一〇名のご出席のもと、県立大講堂で開かれました。総会議事後、三月にご退官された英文科の畑先生、食物科の蒔田先生に、同窓会から記念品が贈られました。

総会後の講演会は、今回は趣向を変えて「美尾洋香トークコンサート」と銘打ってヴァイオリンの演奏会が開かれ、洋香さんが母親として教師としての美尾先生の思い出を語りながら、パッハの曲や小品の数々を心を込めて演奏して下さいました。会場を埋めた美尾先生にゆかりのある人達、それぞれの思いで耳を傾けた事でしょう。

お昼は立食式の懇親会で、恩師を囲んでの近況報告や、旧友とのお喋りに賑やかな初夏の一日でした。

剣祭

バザー出店 平成6年11月3日

出品された会員の方々は			
パン・クッキー	鈴木真理子	大学2回	食物
マドレーヌ	猿渡南江	大学3回	食物
フルーツケーキ	宮武紀子	大学4回	食物
紅玉りんごジャム	八木文子	短大15回	食物
おでん・大学芋	牛木琴	短大1回	被服
おでん	竹沢好美	短大1回	被服

売上金46630円は本会計に納入
来年度も参加を予定しています。国際色豊かな剣祭にあなたもいらっしやいませんか!!